

2019年 1月 30日

各 位

会社名： 株式会社 ナ ガ セ
 代表者名： 代表取締役社長 永瀬 昭幸
 (コード番号 9733 東証JASDAQ)
 問合せ先： 取締役総務本部長 内海 昌男
 電話番号： (0422)45 - 7011

業績予想の修正(連結・個別)に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2018年4月26日付「2018年3月期 決算短信[日本基準](連結)」で開示いたしました、2019年3月期の業績予想について、連結・個別とも各利益部門が前回予想を下回り、修正を要する見込となったため、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1 2019年3月期(自2018年4月1日 至2019年3月31日)業績予想の修正について

(1) 連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	47,975	5,722	5,100	2,865	323.10
今回修正予想(B)	46,075	2,822	2,300	1,129	127.37
増減額(B-A)	△ 1,900	△ 2,900	△ 2,800	△ 1,736	—
増減率(%)	-4.0%	-50.7%	-54.9%	-60.6%	—
(ご参考) 前期実績 (2018年3月期)	45,949	5,156	4,697	2,610	294.35

(2) 個別業績予想の修正

	売上高	経常利益	当期純利益	1株あたり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	29,808	3,611	1,955	220.47
今回修正予想(B)	28,658	1,511	483	54.49
増減額(B-A)	△ 1,150	△ 2,100	△ 1,472	—
増減率(%)	-3.9%	-58.2%	-75.3%	—
(ご参考) 前期実績 (2018年3月期)	28,619	3,418	1,299	146.50

2 修正の理由

(1) 連結業績予想の修正理由

当社グループは、人財育成企業として、「独立自尊の社会・世界に貢献する人財の育成」という教育理念をグループ全体が共有し、高校生部門(東進ハイスクール、東進衛星予備校、早稲田塾等)、小・中学生部門(四谷大塚等)、及びスイミングスクール部門(イトマンスイミングスクール)を中心に、一貫してその実現に取り組んでおります。

連結業績予想については、小・中学生部門が期初計画に沿って堅調に推移している一方、高校生部門とスイミングスクール部門では期中の在籍生徒数の推移が前年並みに留まっていること、並びに広告宣伝費、人件費を中心としてナガセ個別の費用が期初計画を上回っていることから、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の各項目について期初計画を下回る見込みとなり、上記1の各表のとおり業績予想を修正いたします。

売上高については、高校生部門において、中学生・高校生部門の「全国統一テスト」6月開催の追加(小学生部門と同様の年2回実施)や、「大学入学共通テスト」の初年度生である高校1年生を対象とした「共通テスト対応模試」の新規実施などの募集施策による在籍生徒数増加を見込んでおりましたが、施策の効果発現、浸透までに一定の時間を要しており、当期については期初計画を1,900百万円下回り、前年並みの見込みとなりました。

費用面では、上記の「全国統一テスト」・「共通テスト対応模試」に加え、「大学入学共通テスト」を視野に入れた英語4技能評価への対応や、AIを活用した演習講座の開発など、学力を伸ばすための新たな教育手法や講座の開発を積極的に推進し、期初計画を1,000百万円上回る経費を投じました。

こうした、ブランディングを含む広告活動、教材や教育手法に対する絶え間無い取り組みは、当社グループ発展のための積極的かつ重要な施策と位置づけており、来期以降の売上高伸長に寄与することを見込んでおります。

(2) 個別業績予想の修正理由

(1) 連結業績予想の修正に伴い、個別業績予想についても、上記と同様の理由で修正いたします。

なお、今回の業績予想修正に伴う配当予想の修正はございません。

※ 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。

実際の業績等は予想に内在するさまざまな要因により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上